

モーダルシフト倍増に向けた 港湾局の取組状況について

令和6年7月31日
国土交通省港湾局

- 「物流革新緊急パッケージ」(令和5年10月関係閣僚会議決定)において、鉄道(コンテナ貨物)、内航(フェリー・RORO船等)の輸送量・輸送分担率を今後10年程度で倍増する目標が策定された。
- モーダルシフト等に対応するための内航フェリー・RORO船ターミナルの機能強化として、船舶大型化等に対応した港湾整備や、情報通信技術により荷役効率化等を図る「次世代高規格ユニットロードターミナル」の形成に向けた取組を推進する。

■ 内航フェリー・RORO船の大型化動向(全国平均)

内航フェリー	1990年	2020年	伸び率 (1990年⇒2020年)	RORO船	1990年	2020年	伸び率 (1990年⇒2020年)
総トン数	7,900トン	11,000トン	約1.4倍	総トン数	4,300トン	11,000トン	約2.6倍
シャーシ積載台数	95台	131台	約1.4倍	シャーシ積載台数	50台	133台	約2.7倍

- モーダルシフト促進等に向けた機能強化
- ・ 船舶の大型化等に対応した岸壁等の港湾施設の整備を実施。
 - ・ 長距離輸送等を担う内航フェリー・RORO船ターミナルにおけるシャーシ・コンテナ置場等の整備に対する支援制度を創設。(補助率 1/3以内)

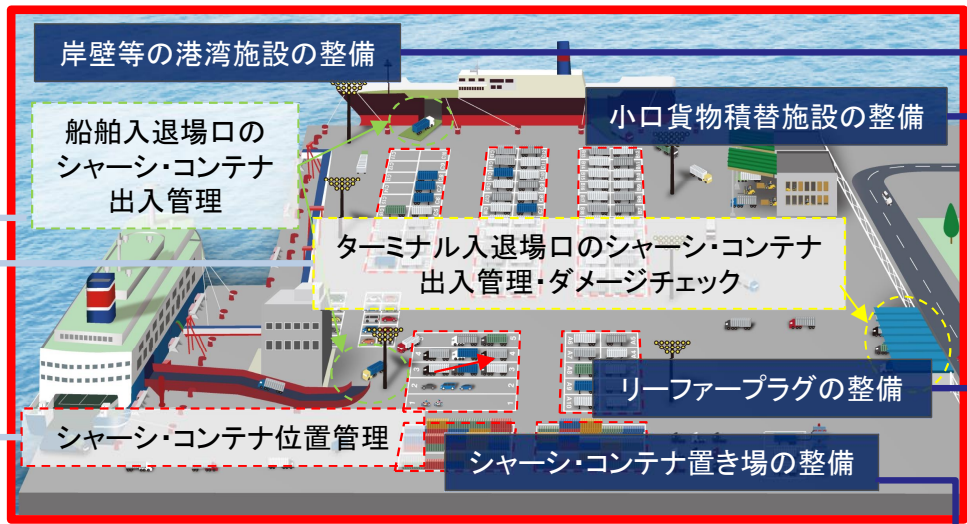
- シャーシ・コンテナ位置管理等のシステムに関する技術検証
- ・ シャーシ・コンテナの位置管理等のシステムの開発と内航フェリー・RORO船ターミナルでの現地技術検証を実施中。
 - ・ 引き続き、現地技術検証の結果を踏まえ、システムの改良及びシステムの普及に向けた取組を推進する。



敦賀港
ターミナルの入退場の様子



大阪港
シャーシを探索するヘッドの様子



次世代高規格ユニットロードターミナル形成に向けた取組イメージ
出典:「次世代高規格ユニットロードターミナル検討会」
とりまとめ(令和6年3月)

- ＜次世代高規格ユニットロードターミナル検討会 構成員＞
- | | |
|-------|-----------------------|
| 石黒 一彦 | 神戸大学大学院海事科学研究科准教授 |
| 加藤 博敏 | 流通経済大学客員講師 |
| 福田 大輔 | 東京大学大学院工学系研究科教授 |
| 根本 敏則 | 敬愛大学経済学部教授(座長) |
| 杉村 佳寿 | 国土技術政策総合研究所港湾システム研究室長 |
- 内航海運業者(フェリー事業者、RORO船事業者) 10者



東京港
RORO船着岸中の岸壁



東京港
小口貨物積替施設



博多港
シャーシ・コンテナ置場



大分港
リーファープラグ